

廃棄物削減

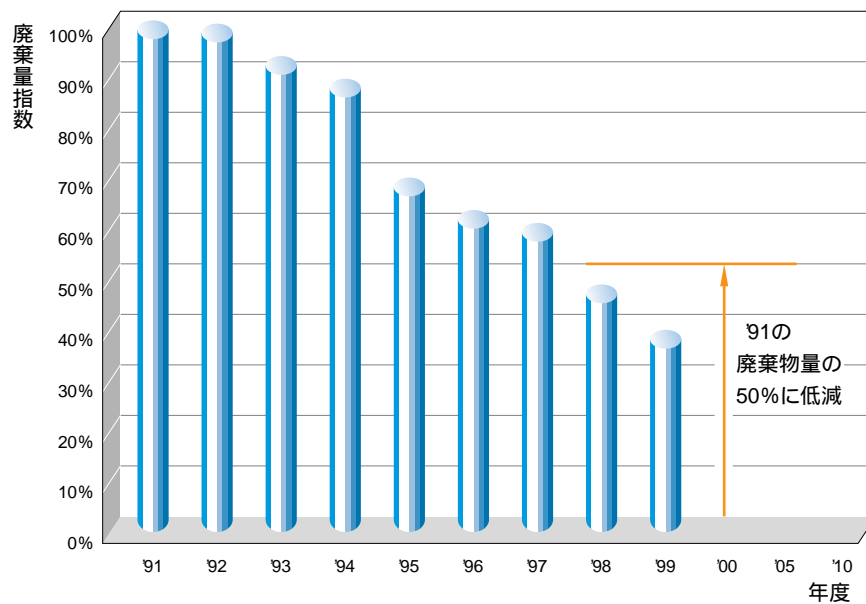
当初の行動計画である「廃棄物を1995年までに1991年の20%、2000年までに50%削減する('93年3月策定)」は、廃棄物分別の徹底によるリサイクル拡大やRDFプラントの活用、廃液濃縮設備導入など事業所での強力な活動の結果、既に1998年に達成しました。

今後求められる循環型社会形成推進に向けて、使用済み製品の回収、回収資材の再利用等資源の有効利用により最終処分量の低減が必要となっています。

これをつけて行動計画を見直し2000年からは「廃棄物の最終処分量を2005年までに1998年の15%、2010年までに25%削減する(2000年3月策定)」としました。

2000年度は、廃油濃縮設備の導入や電線・ケーブルのリサイクル取り組みの全国的な展開等の活動を進めます。

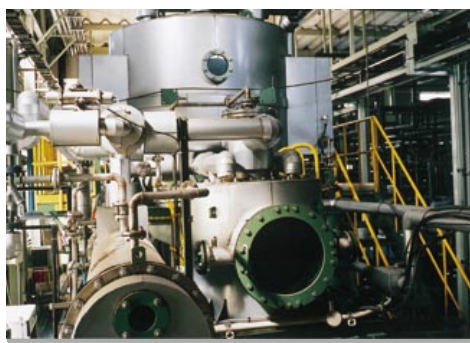
廃棄物量推移



2000

環境報告書

廃棄物削減対応例



情報・エレクトロニクス事業の拡大に伴い廃酸・廃アルカリ液を外部へ委託処理する量が増大してきました。これに対応するため廃液を濃縮し社外への廃棄量を「ゼロ」に近づける廃液濃縮システムを、半導体材料工場である電線工場に導入しました。年間15,000トン进行处理し、社外への排出量を年間13,000トン削減することが出来ました。



また、当社日立地区の5工場から発生する「紙屑・廃プラスチック・木屑」等を自社内で処理し再資源化をはかるため、RDFセンタを稼働させています。年間約1,300トン进行处理し市内にある発電所の燃料として供給しています。

